

Ed.ベンだより



〒 242-0007 大和中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL http://edventure.jp/

今年の夏は、様々なことがらに心がざわつき、その出口の見えなさに、不安にかられた季節ではなかっただろうか。どうしようもない矛盾の中に絡め取られているような夏であった。

新型コロナウイルスの感染爆発 不安の筆頭は、もちろんこれである。あれだけ長期にわたる蔓延防止措置や緊急事態宣言が出されても、感染は減少するどころか増加の一途。ワクチン接種の先行きも、すすんでいるのかいないのか、はっきりしない。突然始まった「職域接種」から、「順番で……」という考え方は大きく崩れ、大きな団体や力のある企業は「親戚や知り合いでも連れてきて……！」の勢いだったと聞く。挙句の果てにワクチン不足！政府からは説明らしい説明もなく、専門家も「医療崩壊」と「さらなる自粛を」と口を揃える。マスコミによって日々の感染者数が伝わるたびに驚きとあきらめと……。全国のどこもかしこも増えてくると流石に不安になってくる。それまではどこか高みの見物気分だったものが、だんだんと出口が見えない苦しさを内側に抱えてくる。

そして、こうした不安が強くなってくると、その原因探しが始まり、「自粛慣れ」によって意識が低下しているのだと、相変わらず「一人一人」の気持ちの在り方に責任を求める声が強くなる。「国民一人ひとりの覚悟」という精神論によって危機を乗り切ろうとするのは、日本の得意技。感染が収まっているときに、「検査体制の拡充」や「医療体制の構築」などを求める声があったにもかかわらず、全く取り合ってもらえない。挙句の果てに五輪はやっても帰省はするな！何が優先事項か全くわからない状況が続く。こうした中で本当に怖く思うのは、「いつまでも自粛を求めても効果が出ないなら、ロックダウンなどの私権制限を含む強い措置を出せるよう、法改正をするべきだ」という声が大きくなりつつあることだ。

検査体制を拡充したり、医療体制を再構築するなどせず、ひたすら「自粛」と個人に責任を押し付けるのもなんだが、それを一気に「国民はどうせだめなんだから、法で制限をかけることが政治の責任だ」というのも、これまた非常に極端だ！災害に便乗する商法があることはよく耳にするし、聞いたたびに心穏やかではないが、災害に便乗する政治となると、それこそ民主主義からおおきく逸脱する行為だと言わざるを得ない。それこそ火事場泥棒ではないか。

コロナの出口が見えない不安……それは、緊急時に冷静な思考や論議から答えを導かず、国民の個人的な責任に転嫁したり、強制的に何かに従わせようとする暴力的とも思える発想しか見えてこない今の日本の状況……ということになるのだろうか。

もうすぐ夏休みが終わる子どもたち。こんな大人の姿を子どもたちはどんなふうに思うのだろうか。

東京五輪！ 海外のマスコミが、IOCバツハ会長を「ぼったくり男爵」と呼んだそうだが、終わってみると、とっても頷けるのに驚いた。それほどオリンピックにおける表の世界と裏の世界がはっきりと目の前にさらけ出され、見ている者の気持ちが極端に引き裂かれたイベントであった。

表のスポーツの世界は予想通りに素晴らしいものであった。日本の金メダルの数よりも、若い世代の活躍や、それぞれの選手がこだわり努力し続けてきた姿は、スポーツの世界をより身近に感じさせてくれた。特に、新しいスポーツであるスケートボードの世界が、最年少の金メダルや、参加者が国を超えてお互いをリスペクトする姿勢、何よりも競技を戦いという視点ではなく、楽しさとチャレンジという視点から捉えていることに新鮮さを感じました。テレビ番組の取材で、「無観客で応援がいなかったことについてはどう感じましたか？」という質問に対し、「緊張しなくて逆に良かったです」というスケートボードのメダリストの答えは、オリンピック種目の勝者というより、とても好感が持てた。いろいろな競技をテレビで観戦して爽やかな気持ちになったことも多かった。

しかしその一方、裏の世界はひどかった。そもそも多額のお金が動いて東京での開催が決定したのではないかという疑惑には、まだ結論が出ていない（当時の竹田JOC会長が招致委員として国際陸連関係者に賄賂を使って働きかけた疑惑）。招致の段階からこれで、その後も「恥ずかしいこと」や「疑惑」のオンパレードで、ここでは詳しく述べる必要がないくらいに広く知られている。公式エンブレム盗作疑惑での撤回、新国立競技場の設計変更、女性蔑視問題や人権に関わる問題が多数表沙汰になり、そのたびに謝罪と当該の人物を外して対処してきた。もちろん、IOCの会長がコロナの感染状況など意に介さないメッセージを出し続けていたのだから、オリンピックが崇高な理想を掲げても、なにか中身の無いハリボテのように感じてしまう。「バツハ会長はノーベル平和賞を狙っている。だから、広島を無理にでも訪れたのだ」という噂も妙に納得してしまう。

加えて、お金の話になってくるともっと不可解なことが続く。そもそも暑い8月の時期で



の開催が決まったのは、アメリカのテレビ局の放映権によることは有名な話。あまりに暑いので、マラソンだけは札幌に急遽移す始末。なにが「オモテナシ」なのかよくわからない。開会式に関しても、多額の費用で「電通」が落札し、その結果当初の予定スタッフはどんどん切られ、最後は電通お抱えスタッフが先程述べた問題を引き起こしている。学校連携観戦チケットで会場で観戦する児童に対して、当該の教育委員会が「飲み物は、スポンサー企業であるコカコーラのペットボトルを持参するように。それ以外のメーカーはラベルを剥がして持ってくることを指示したという話もある。「一体オリンピックってナンナンだ?」「裏を返せば、一大スポーツ興行イベントでしかないではないか」そんな思いがふつふつと湧いてくる。

拳句の果てに、人流は増え感染は拡大。政府は「関係ない」とは言うが、オリンピックによって、自粛のタガが外れたことは誰も否定できないだろう。

IOCにも、JOCにも、そして政府にも、まともに考え、説得力のある答えを導き出す力がないのに、最後には、かかった費用のつけがこれから私達に回ってくることになると思うと、正直納得がいかない。この夏のオリンピックを子どもたちに語る時、表の美しいところだけを語っているのだとしたら、それは子どもたちへの裏切りのようにも感じるのだが、いかがだろうか……?

線状降水帯…… この言葉を覚えたのはつい2~3年前だ。しかし、この単語は年を追うごとに聞く回数が増えている気がする。本当に雨の降り方が尋常ではない。集中的に、その地方を攻撃するかのよう豪雨が続き。今まで積み上げてきた「治水」力では太刀打ちできず、想像もできない被害をもたらす。しかも、それがここ数年毎年のこととなり、これからも続きそうだ。「垂直避難」という言葉も人々に浸透し始めているくらいだ。

この豪雨、日本だけではない。お隣の韓国や中国でもひどい被害に見舞われている。そして、雨だけではない。暑さも異常だし、冬の雪の降り方も予想を超えることがある。つまり、自然環境が壊れつつあることはもう疑うべくもない。地球温暖化!

日本もやっとカーボンニュートラルの数値目標を掲げたが、現在問われているのは、「間に合うのか」ということと「できるのか」ということだ。海洋汚染や温暖化など、環境は一度壊れてしまったらもとには戻らない。現実にその被害が多くの場所で現れているのに、この取り組みは本当に間に合うのか? そして産業構造や経済活動がその主要な原因となっているのに、その大本の構造や活動はそのままできるものなのか?

集中豪雨による土砂崩れによって多くの犠牲を出した熱海の映像が、テレビに映し出された。違法な盛土が原因とも見られ、人災ではないかと言われている。気になるのはその盛土地点の上にある広範囲な太陽光発電システムだ。再生可能エネルギーの中でも現在の一番人気は「太陽光発電」だ。「元手は少なく儲けは大きく!あなたの土地を有効活用しませんか?」という太陽光発電の宣伝文句はネットを開けば踊っている。つまり、太陽光発電はいまや誰もがができる儲け話となっているのだ。結果、少しの空き地が利用され、林の木は切られ、アチラコチラに太陽光発電所が見られるようになった。これは環境保全?地球温暖化対策?……それとも環境破壊?

熱海の映像を確認すれば、山頂に近いところの木々を大きく切り開き、大きな太陽光発電施設が作られている。木が切られたためにそこは大きく保水力を失った。保水力を失った森から雨水が違法な状態の盛土に流れ込み、今回の土砂崩れを引き起こしたとも考えられるようだ。地球温暖化→カーボンニュートラル→太陽光発電……という筋書きはきれいに整っていても、利潤追求をベースに取り組む限り、そこには大きな矛盾が生まれていくのだろう。

筋書きだけを整える環境問題への取り組みは、子ども達に何を残すことになるのだろうか。

この夏に感じたいくつかの不安をこうして整理して考えてみると、今の日本の社会や政治が大きな矛盾を抱えているにもかかわらず、その問題に正面から向き合っていないことが浮き彫りになる。この矛盾を前に、これを放置し黙るのか、それとも私たち大人が声をあげる力をつけていくのか。子どもの前に立つ前のところで、私たち大人の姿勢が問われている。

これからのEd. ベンチャーの学習会

スタディツアー (Zoom)

●8月28日(土) 15:00~16:30 事例研究会「家庭内暴力が疑われる子ども・家庭へのアプローチ」

インクルーシブな社会を目指す学習会 (Zoom)

●9月10日(金) 19:00~21:00 学習会「児童養護施設と子どもたち」講師：山口貴子氏(児童養護施設職員)

外国人の子ども理解のための学習会 (Zoom)

●9月25日(土) 13時半~事例研究会

理論学習会 (Zoom)

●10月6日(水) 19:00~21:00 座談会「今の学校 どうなってるの?」

【理事の一言】数年ぶりの授業、中学3年の社会科だ。緊張して教室へ。2人の生徒が飛び出してきて「授業の初めにニュースを題材にしたコントをやらせてほしい」と言う。「いいよ」と任せる。コントの中で難しい言葉が出ると手が挙がり「それってどういう意味?」と質問がとぶ。すかさず他の子が立ち上がり説明をする。皆が納得すると次の場面へ。仲間のコントに引き込まれながら子どもたち同士で世の中の問題を考えていく。そんな様子を教室の片隅で見ながら楽しい気分になったところで……目が覚めた。夢か!! 現役の頃、もっと生徒がつくる授業を工夫できればよかったなあ。(GY)